

## 令和6年度 稲美中学校 3年生の学力調査結果

### <学習成果と課題>

#### **国語**

○成果があった点 ●課題がある点

#### **言葉の特徴や使い方に関する事項**

文章の読み取りでは、普段より話し合い活動などで、必要な言葉を記録していくよう指導している成果として、文脈にあった言葉を選択できていた。日頃の日記指導などの様々な書く場面で多くの言葉を使用できるよう指導していることや、自分にできることから努力していくように指導している成果として漢字の正答率も高くなったと考えられる。しかし、どの問いに対しても、無回答率が比較的高いため、わからない問題にも諦めずに取り組む力をつけていきたい。

○語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。

●読書量を増やし、語彙力を上げる。

#### **情報の扱い方に関する事項**

意見と根拠など情報と情報との関係についての正答率が低く、今後は自分の考えを文章中の言葉を使用し、根拠を考えながら伝えられようように指導していきたい。また、具体と抽象など情報と情報との関係についても考えながら、文章を読み取る力もつけていきたい。

#### **話すこと・聞くこと**

話し合い活動の中で、普段から、自分の考えをわかりやすく伝えるにはどのような工夫が効果的なのかを聞き手の立場に立って考えることができるように指導している成果として、正答率が高かった。今後も話し合い活動を充実させ、さらに力を伸ばしていきたい。

#### **我が国の言語文化に関する事項**

● 書写の学習を丁寧に行い、文字の成り立ちや、行書について考える。

#### **読むこと**

朝の時間を活用した読書活動の成果として、文章の内容を的確に読み取る力が身についている。今後は筆者がどのような理由や根拠を示し、読み手を説得しようとしているのか考える指導を充実させることが必要である。

○ 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる。

● 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。

## 数 学

○成果があった点 ●課題がある点

### 数と式

基本的な計算に関してはおおむね理解できているが、文字を利用した抽象的な概念に関しては課題が残る。具体的な数字に置き換えて考えていくことが大切である。

- 正負の数の計算ができる。
- 等式の性質を利用して、式を変形することができる。
- 数に関する証明において、論理的に考えることができる。
- 数の性質を理解し、活用できる。

### 図 形

一つ一つの図形の性質は理解できているが、それらの性質を利用して他の性質を考えていくことに課題が残る。三角形の合同などの証明については、合同条件を理解し、活用ができるように演習していく必要が大切である。

- 基本的な図形の性質を、理解することができる。
- 三角形の合同を、論理的に説明することができる。

### 関 数

比例や一次関数の基本は理解できている。グラフからどのようなことが読み取れるのかということについては、やや課題が残る。関数の式とグラフの関係を理解するために、演習していく必要が大切である。

- 比例や一次関数の基本的な意味を知る。
- グラフから情報を読み取ることができる。

### データの活用

示されたデータから、どのような特徴があるかなどを、おおむね読み取ることができている。データを活用し、自分が欲しい情報を読み取ることがおおむねできている。

- 四分位範囲や箱ひげ図を必要な情報を読み取ることができる。
- 確率を求めることができる。
- データを読み取り、活用できる。

## 令和6年度 稲美中学校 3年生の学力調査結果

＜生徒質問用紙＞ 生徒質問紙の回答から本校3年生の生徒の傾向を分析しています。

### **高い項目**

多くの生徒が、毎日、同じくらいの時刻に寝起きし、朝食を毎朝食べるなど、よい生活習慣が身についている。また、「学校に行くのが楽しい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と多くの生徒が答えており、「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と感じている生徒や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」と答えた生徒の割合も高い。以上のことから、多くの生徒が、安定した家庭生活、学校生活を送っていることがわかる。

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達関係に満足している」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えた生徒の割合が高く、学校がよいふれあいの場、学びの場となっていると考えられる。

「自分には良いところがある」「先生もそれを認めてくれている」と感じている生徒が多く、自己肯定感が高いことがうかがえる。人権に関する回答では、たいへん多くの生徒が「いじめはどんなことがあってもいけない」「人が困っているときは進んで助けている」と答えており、人権意識がとても高いことがうかがえる。また、生徒たちの多くは、それぞれ将来の夢や目標をもっており、「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と考えている。生徒の様々な良い面をさらに伸ばしていきたい。

放課後や週末の過ごし方として、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」割合が最も多い。続いて「学校の部活動」や「家族と過ごす」が多くあり、自宅で過ごす時間が増えていることがわかる。多くの生徒にいろいろなふれあいの機会を持たせたい。

学習面では、タブレットの使用について、個別に学習でき、わからないところを調べたり、音声や画像・動画を活用したりできるなど、有効な手段であると考えている。そしてこれまで「積極的に自分から取り組んだ」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と比較的多くの生徒が答えている。ICTを各教科で有効に使っていきたい。

### **やや低い項目**

普段、学校以外で勉強のためにパソコンやタブレット使用している生徒は多くない。パソコンやタブレットを、家庭学習で有効に使える指導をもっとしていきたい。

パソコンや携帯を使ってゲームをしたり、SNSや動画を視聴したりするのに多くの時間を割いている生徒が多い。しかし、多くの生徒がパソコンや携帯を家族とのルールを守って使っていると答えている。家庭での時間を自分で、より有効に使えるようにさせたい。

また新聞を読んでいない生徒の割合は4分の3をしめており、家庭におかれている図書の数も多くない。活字離れが進む中、朝の読書を実施したり、個々で電子図書館が利用できたり、地方の新聞を提供したりしてもらっているが、活字に親しませる工夫がさらに必要である。

教科の授業（国語、数学、理科）好きと答えた生徒が多いとはいえないが、その教科を学ぶことが大切だ、また将来役に立つものだと多くの生徒は考えている。また、時間についての質問で「回答時間が十分でなかった」「時間が足りない」と答えた生徒が多くいた。教科や教材への興味を高める指導を工夫していくと共に、基礎の学力や思考力を高め、制限時間内に、問題を処理する力をつけさせていきたい。